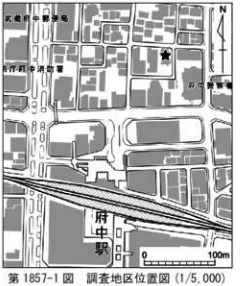
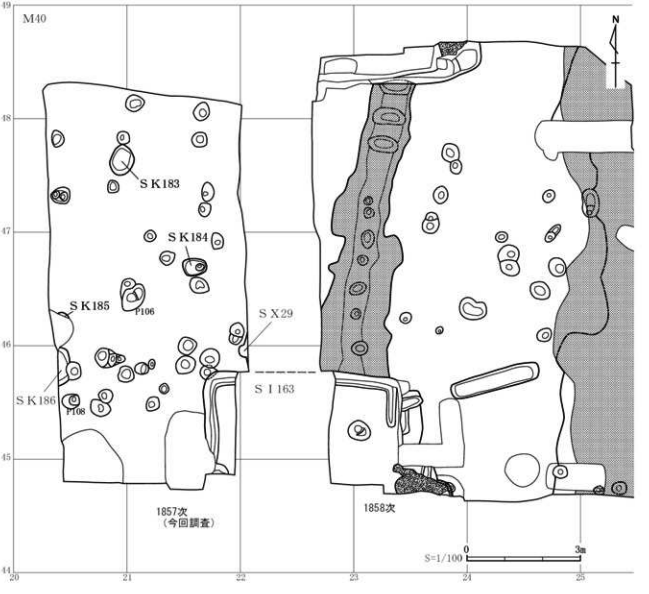
9．1857 次調査報告

遺跡名	武蔵国府関連遺跡		
グリッド	M40－14次		
所在地	東京都府中市府中町１－11－７の一部		
現地調査期間	令和２年７月20日～令和２年９月25日		
面積	51.7㎡	遺物出土量	コンテナ１箱（１袋）
検出遺構	竪穴建物跡　１棟（M40－ＳＩ163） ［奈良・平安時代］ 土坑　４基（M40－ＳＫ183～186） ［奈良・平安時代］ その他の遺構　１基（M40－ＳＸ29） ［奈良・平安時代］		
調査担当者	佐藤梨花		
調査従事者	中條寛・大澤一重（府中市遺跡調査会），鍛冶屋勝二・大迫敏美・駒村大輔・高田直・渡邊遥・有原寛・佐藤郁子・辻浩美・板坂聡・中鉢雅之・鶴谷真也・遠藤旭・小川麻紀・佐藤真弓・笠原知幸・清水英樹（島田組）		



第 1857-1 図　調査地区位置図（1/5,000）



第 1857-2 図　調査全体図

1　調査地区の概要

当調査地区は，武蔵国府関連遺跡の国府地域に位置し，京王線府中駅から北北東に約 230 mに，国道 20 号線（新甲州街道）から北約 85 mに所在する。地形的には，府中崖線から約 830 m北に入った，立川段丘面上に立地する。周辺では古代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が多数見つかっており，当調査地区は武蔵国衙の北方に位置する集落の一角を占める。

当調査地区では，現地表面から 1.2 mまで近現代の造成土を確認し，-1.2 mでⅢ層を確認した。遺構はこのⅢ層上面で検出した。安全のため，調査区の壁面はすべて土留めを行った。そのため，調査地区の壁面については記録していない。

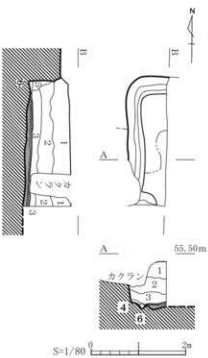
2　遺構と遺物

当地区では，奈良・平安時代以降の竪穴建物跡 1 棟，土坑 4 基，その他の遺構 1 基，及びピット数基を確認した。

竪穴建物跡

Ｍ40－ＳＩ163　竪穴の東側と南側が調査区外に及ぶ。東に隣接する 1858 次調査地区で発見した竪穴建物跡と同一の遺構と考えられる。この遺構については，1858 次調査報告で詳述する。

遺物は土師器・甕（01），須恵器・坏（02），須恵器・長頸瓶（03）が出土している。(01) は厚手の器壁を持つ小型の台付甕である。Ｎ２～４期のものと見られる。(02) の須恵器・坏は，底部外周ヘラ削りがある。Ｎ３～４期のものと見られる。(03) は肩部が「く」の字状に張る形



M40－ＳＩ163　土層説明
1. 暗褐色土　灰褐色土5 ～ 7%，φ1 ～ 3cm小礫1%，φ3mm白色粒3%，橙色粘土1%。しまり少々有。粘性なし。
2. 暗褐色土　灰褐色土10 ～ 15%，φ5 ～ 8mm橙色粒2%，φ8mm白色粒2%，φ5mm炭化物1%。しまりなし。粘性少々有。
3. 暗褐色土　黒褐色土15%，φ1 ～ 2cm炭化物1%。しまり少々有。粘性有。
4. 暗褐色土　黒褐色土20%，φ5mm橙色粒1 ～ 3%。褐色土1%含む。しまりあり。粘性あり。
5. 黒褐色粘質土　2・3層に比べローム粘土少ない。炭化粒やや多い。橙色，白色粘土ごく微量。粘性あり，しまりやや弱。
6. 黒褐色粘質土　砂粒状～φ2cm のブロック状のローム粘土少量。炭化粒混入。しまり弱。粘性やや弱。周溝覆土？

第 1857-3 図　M40- ＳＩ163 平面・断面図

ＳＩ163　※計測値は 1858 次調査地区分も含む			
グリッド	Ｍ40 (21 ～ 23，44・45)。	竈位置	東壁。
プラン・主軸	方形？　Ｎ－93°－Ｅ。	用材	白色砂質粘土。
規模	南北 2.75(3.00) 以上×東西 4.75(5.75) m。	中央部軸長	202 cm。
壁	高さ最大 78 cm。ほぼ垂直に立ち上がる。	壁掘り込み	U字形に 119(128) cm。
ピット	2 個。	床掘り込み	楕円形に 9 cm。
周溝	東壁一部を除き廻る。幅 30 ～ 35・深さ 5 ～ 9 cm。	袖壁	立ち上がり不明。
床	全面貼り床。中央部のみ堅い？	煙道	不明。
掘り方	全体を平坦に掘り込む。	両袖部内幅	不明。
竪穴の備考	中央部，南側は調査地区外。撹乱に切られ，ＳＦ２，ピットを切る。	内方張り出し	左 12 cm・右不明。
		火床	建物床面よりやや低い。
		竈の備考	竈左側に奥行き 58 cmの棚状施設。

状でN期のものと見られる。

本遺構は，暗褐色土を主体とする覆土の様相と遺物から，古代（N期）の所産と思われる。

土坑

M 40 － S K 183　長径 0.82 m，短径 0.63 mの楕円形を呈する。検出面からの深さは 0.11 mで，断面形は浅皿形である。遺物は，古代の土師器片が１点出土した。小片のため，図化には至らなかった。暗褐色土を主体とする覆土の様相と出土遺物から，古代の所産と思われる。

M 40 － S K 184　長径 0.62 m，短径 0.46 mの不整円形を呈する。検出面からの深さは 0.13 mで，断面形は底面に凹凸のある浅碗形である。遺物は，土師器片３点，須恵器片８点が出土した。いずれも小片のため図化には至らなかった。暗褐色土を主体とする覆土の様相や出土遺物から，古代の所産と思われる。

M 40 － S K 185　全体に大きく攪乱を受け，土坑の肩部のみ確認した。規模は，長径 0.33 m以上，短径 0.7 m以上で，平面形は不明である。残存する箇所の検出面からの深さは 0.17 mで，断面形は西側にやや段を有する碗形になると見られる。遺物は出土しなかった。暗褐色土を主体とする覆土の様相から，古代の所産と思われる。

M 40 － S K 186　西側は調査区外に達し，東側はピットに切られる。規模は，長径 1.04 m以上，短径 0.3 m以上で，平面形は不明である。検出面からの深さは 0.36 mで，断面形は碗形である。遺物は土師器片 27 点，須恵器片 19 点，土師質土器片２点が出土した。いずれも小片のため，図化には至らなかった。暗褐色土を主体とする覆土の様相や出土遺物から，古代の所産と思われる。

その他の遺構　M 40 － S X 29　南北１m，東西 0.24 mの範囲で硬化ブロックを確認した。硬質面は調査区外に及ぶ。ごく一部の検出のため，その性格等は不明である。当初は 1858 次調査地区で発見したＳＦ２の一部をなすと考えたが，硬質化した土の質感が異なり，同一ではないと判断した。遺物は出土しなかった。硬化した土は黒褐色土～暗褐色土を呈しており古代の所産と考えられる。

ピット

23 基検出した。規模は，いずれも長径 0.25 m～ 0.81 m，短径 0.17 m～ 0.45 m，深さ 0.16 m～ 0.64 mの範疇に収まる。建物等を構成するようなまとまりは見られない。それぞれ黒褐色土～暗褐色土を覆土の主体とする様相から，いずれも古代の所産と思われる。

遺物は，Ｐ 14 － 106 から土師器・坏（4.5），金属製品が，Ｐ 14 － 108 から土師器・甕（06）が出土している。(04)・(05) は北武蔵型の坏である。底部と口縁部の間に稜線が入る。Ｎ２期ごろのものと見られる。(06) は「く」の字状に外反する口縁をもつ甕である。Ｎ期のものと見られる。

表土からの出土遺物

表土からは土師器・甕（07, 08）が出土した他，土師器片 140 点，須恵器片 62 点，土師質土器片２点，かわらけ片２点，その他１点が出土した。

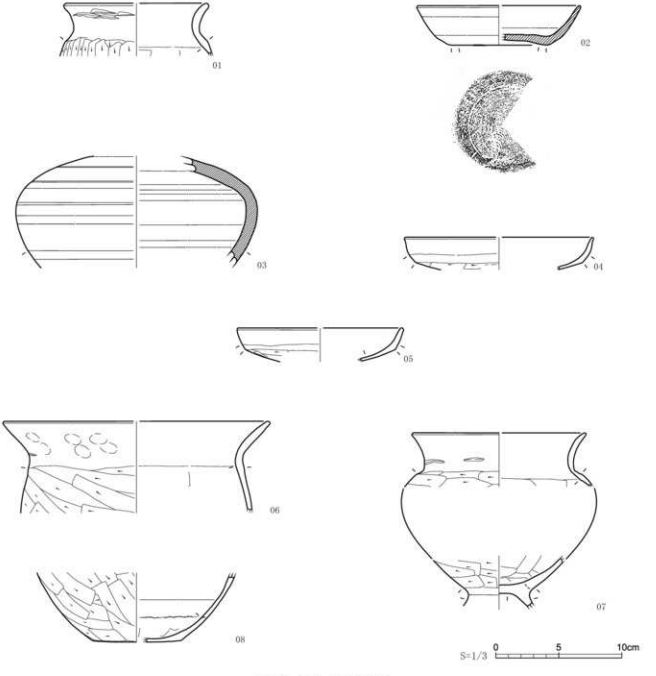
遺構№	グリッド	平面形・規模（cm）	備　　考
ＳＫ 183	Ｍ 40 (20・21，47)	楕円形，長軸 82 × 短軸 63 × 深さ 11	
ＳＫ 184	Ｍ 40 (21，46)	楕円形，長軸 62 × 短軸 46 × 深さ 13	
ＳＫ 185	Ｍ 40 (20，46)	不明，長軸 33 以上 × 短軸 7 以上 × 深さ 17 以上	攪乱に切られる。
ＳＫ 186	Ｍ 40 (40，45)	不明，南北 104 以上 × 東西 30 以上 × 深さ 36	西側は調査地区外。ピット，攪乱に切られる。
ＳＸ 29	Ｍ 40 (21・22，45・46)	不明，長軸 100 以上 × 短軸 24 以上 × 深さ 13	東側は調査地区外。

(07) は台付甕である。底部が台部と一体をなし，胴部は台部から輪状に剥離する。口縁の形状は「く」の字に近く，器壁はやや厚手である。N期後半ごろのものと見られる。(08) は平底甕である。底部からの立ち上がりがやや丸みを帯びる。器壁がやや厚手であり，N期後半ごろのものと見られる。

3　まとめ

当調査地区では，竪穴建物跡や土坑等の遺構が発見されている。遺構から出土している遺物はN２～４期のものが主体であり，本調査地区の箇所では，国府成立期以降，奈良時代を中心とした営みが行われていたものと見られる。

今後，1858 次調査成果やその他既往の調査成果と併せて，当調査区周辺の営みについて，検討をすすめていきたい。



第 1857-4 図　遺物実測図

No.	遺　構	器　種	口径・器高・底径	特　　徴
1	M 40 －S I 163	土師器・甕	11.1・(4.2)・－	にぶい褐色。口縁部～胴上部 1/4 弱残存。口縁部一部に煤付着。
2	M 40 －S I 163	須恵器・坏	12.8・3.1・7.5	灰色。口縁部 3/8，体部 3/8，底部 5/8　残存。ロクロ回転順回り。重ね焼き。
3	M 40 －S I 163	須恵器・長頸瓶	－・(8.9)・－	灰色。胴部 1/8 残存。
4	P 14 － 106	土師器・坏	14.8・(2.6)・？	にぶい橙色。口縁部・体部・底部 1/8 残存。
5	P 14 － 106	土師器・坏	13.0・(2.7)・？	にぶい黄橙色，明褐色。口縁部 1/4 弱，体部・底部 1/8 残存。
6	P 14 － 108	土師器・甕	20.9・(7.3)・－	明赤褐色。口縁部 1/8，胴上部少量残存。
7	M 40 －表土	土師器・台付甕	13.5・(4.3)・－	明褐色，内面黒褐色。口縁部 1/4 強，肩部少量残存。内面一部煤付着。
			－・(4.3)・－	明褐色。胴最下部 1/2 強残存。外面剥離。
8	M 40 －表土	土師器・甕	－・(5.5)・7.0	内面にぶい黄橙色，外面にぶい褐色。胴下部 1/4 弱，底部 3/8 残存。

第 1857-5 図
調査地区南側全景（南）

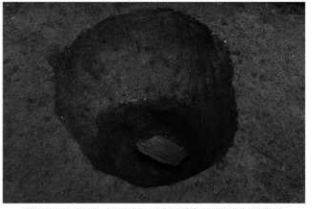
第 1857-6 図
北側完掘全景（南）

第 1857-7 図
M 40 － S I 163 床面全景（北）

第 1857-8 図
M 40 － S I 163 掘り方全景
（北）

第 1857-9 図
M 40 － S I 163 断面（西）

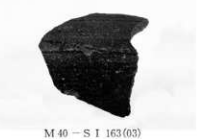
第 1857-10 図　M 40 ― P106 遺物出土状況（東）



第 1857-11 図　M 40 ― P108 遺物出土状況（東）

M 40 － S I 163(01)

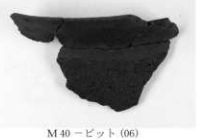
M 40 － S I 163(02)



M 40 － S I 163(03)

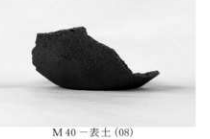
M 40 －ピット (04)

M 40 －ピット (05)



M 40 －ピット (06)

M 40 －表土 (07)



M 40 －表土 (08)

第 1857-12 図　出土遺物